南アルプス甲斐駒ヶ岳・仙丈ヶ岳

山スクールＴ１研修登山　2024.7.13（土）～15（月祝）

●7.13（土）

　7:15JR 大阪駅集合。海の日を含む３連休とあって、集合地の桜橋駅口は登山客で賑わっていた。目印のため、山岳連盟の旗を持って立っていたが、幸い迷う人や遅れる人もなく、予定通りバスに乗り込む。当初、Ｔ１の生徒の一人（松本有希子さん）が、体調不良で休むことになった（らしい）とリーダーの荒木さんから報告があり、一名欠員で進行しそうになったが、その後すぐ、松本さんが元気に現れ、欠席連絡などは一切していない、とのこと。幸いバスの席もあり、問題なくスタートできたが、一つ間違えば行き違いの起こりそうな事態でもあり、なぜそんな間違いが起きたかは、今後のために確認しておきたいと思った。

　往路、道路状況に大きな問題はなく、予定通り仙流荘を経て北沢峠「こもれび山荘」に到着。仙流荘前でのバス乗り換えが、団体貸切という形で、待ち時間もなくスピーディに行えたのは、とてもありがたかった。山小屋泊自体、初めてという生徒もいたが、「こもれび山荘」での過ごし方（物を置く場所など、全てが細かく決められている山小屋であり、それにきちんと対応しないといけないことなど）について、バスの中で荒木さんが話してくださったので、皆心構えをして小屋に入ることができ、良かったと思う。ただ、小屋前で受付が終わるのを待っている間に靴紐を緩めるなどの準備ができておらず、荒木さんから注意があった。小屋での生活も課題の一つだったのに、そのことに心及ばなかったのは、私の反省点だ。

　その後、（雨で宿泊客のキャンセルがあったため、スペースを広く使わせていただけたので）２階でミーティングをし、今後の予定や寝る場所についてなど、詳細を確認。その際、２名が寝袋持参予定とされていたが、本人たちはそんな申し込みをしたつもりはなかったとのこと。とり急ぎ寝具を追加手配し、ことなきを得た。また、翌日の昼の弁当の希望者４名を確認したが、うち２名が後でキャンセルし手配数が変わるなど、ささやかだが、いくつか小さな段取り違いが発生。山小屋での生活も山行の重要な一部であり、場合によっては「眠れない」

「食事が足りない」などの問題につながることもあるので、手配や準備に相違や漏れがないよう、スタッフを含め、今後はもっと注意していきたいと思った。しかしその他については皆非常に協力的で、雨の心配はあったものの、前向きで和やかな雰囲気の中、山小屋での初日を終えることができた。

●7.14（日）

朝 4:00 朝食。雨だけではなく稜線での風が強いことも予想されるので、T1 は、甲斐駒ヶ岳（2967m）を断念し、仙丈ヶ岳（3032.6m）への山行とする。ルートは、五号目の大滝ノ頭を経て尾根から仙丈ヶ岳を目指す予定だが、事前に田中講師から「状況により小仙丈ヶ岳（2864m）までということも考えられる」とのこと。5:00 に小屋を出て、北沢峠で軽くストレッチをした後、看板に描かれた簡単な地図でコースの確認。 2 班（各 6 人）に別れて出発した。A 班は田中講師と平橋講師、B 班は桂山講師と松本が担当。

登山口からは始めから傾斜がきつく急な登りが続く。皆しっかり歩いてはいるが、高度のせいか息が整わないようで、ペースは上がらず、いつもの低山とは違うしんどさを口に出す人も多かった。とくに一名、遅れがちなメンバーがいたので、彼女に合わせて休憩をとったりスピードを遅くしたりしているうち、A 班とは徐々に距離が広がってしまう。霧雨が降ったり止んだりする中、雨具を着たり脱いだりしながら、歩行。やがて小仙丈ヶ岳頂上で一人待機していた田中講師に合流。稜線では風も出てきたが、A 班は仙丈ヶ岳頂上を経て、仙丈小屋を目指すとのこと。後からの反省として、B 班にはこの時点で遅れがちなメンバーもいたことから、頂上を目指すだけではなく、仙丈小屋待機も含めたショートカットルートを考えても良かったかと思う。メンバー全員山頂アタックに意欲的だったので、結果的には全員で登ることができ正解だったと思うが、安全のためには、コースについてここで一度検討すべきだった。

結局 B 班は 11:00 頃、仙丈ヶ岳に到着。風雨が強かったことから、すぐに仙丈小屋に向かって下山し、待っていた田中講師と合流。A 班はすでに 30 分前に出発したとのこと。下山ルートは、田中講師が小屋で確認したところ、藪沢沿いの道はアップダウンがキツく、　（数年

前の台風被害の影響もあるのか）アスレチックのようとのこと。そこで下山路は、馬の背ヒュッテを経て大滝ノ頭へトラバースするルートをとることになった。田中講師を見送り、B 班はトイレや食事の時間も合わせて約 20 分ほど小屋前で休憩。メンバーにルートを説明し、出発。先頭で遅れがちなメンバーを待ちながら歩いていたリーダーは身体が冷えたのか、疲れが見えたので、サブリーダーに先頭を歩いてもらうよう役割を入れ替えて進んだ。相変わらず山は白い霧の中で展望はないが、雨に濡れた緑が美しく、チングルマなど様々な高山植物が咲き乱れるお花畑を行くとあって、時折歓声が上がり、花々に励まされながらの下山となった。個人的には、小さな白い花が集まって咲く夏のナナカマドの姿が新鮮で愛らしく、印象的であった。12:47 馬の背ヒュッテ着。トイレ休憩を含め 10 分ほど休む。

なお、道中私が預かっていた B 班用の無線機は不具合があり、発信はできるが受信できない状況であったが、A 班と離れてしまったこともあり、心配をかけないよう、分岐ごとに現在地の通過連絡を入れることにした。返信がもらえないので、はなはだ心もとなかったが、後で『しっかり聞こえて安心できた』と荒木さんや田中講師に言われ、無線機の効用を再確認。同時に、せっかくの機器が正常に使えなかったのは残念で、今後はそんなことのないように準備したいと改めて感じた。

馬の背ヒュッテを出てトラバースのルートを行くと、３回ほど大きめの渡渉があり、滑りやすい丸太の橋もあったが、全員落ち着いて歩行。渡渉では、予想以上に川幅広く水の勢いも強かったので、全員何事もなく渡りきった時は内心かなりほっとした。13:13 藪沢小屋分岐では、水が道に溢れ進路が不明確であったが、現在地をスマホで確認できたことで、安心して進むことができた。13:28 藪沢小屋、14:12 藪沢大滝ノ頭、15:38 北沢峠・長衛小屋分岐、16:20 北沢峠着。A 班より下山が大きく遅れたため、多くの方が心配して出迎えてくださった。小屋の方が乾燥室にストーブを焚いてくださったので、ハンガーを取ってきてもらうなど A 班の皆さんのサポートを受け、小屋に入る前に濡れたものをスムーズに乾かすことができ、た。全員、汗と雨で内外から身体が冷えてしまっていたので、すぐに衣服を着替えたり乾かしたりできたのはとてもありがたかった。その後、17 時の食事にもギリギリ間に合い、B 班の

長い山行が終了。食後は食堂でミーティングをし、20 時に就寝。皆、疲れていたと思うが、笑顔で帰って来られて本当によかった。

●7.15（月・祝）

4 時朝食。昨夜は猛烈な雨でこの日の山行は無理かと思われたが、1 時間出発を遅らせることで、なんとか雨も上がり、希望者は栗沢山（2714m）を目指して山行することになった。A 班は全員参加だが、B 班のメンバーは、 6 人のうち 3 人が小屋待機を希望。小屋の方の好意もあり、清掃後は小屋 2 階で待っていても良いと了解を得る。不要な荷物は小屋入口横の棚に置かせていただく。6:30 頃、A 班 6 名、B 班 3 名が 1 チームで出発。長衛小屋の前を通り、登山口からは急な上りが続く。7:00 頃、上りの途中で昨日遅れがちだったメンバーが筋肉痛などのため歩くのが無理と感じたようで、「下山します」と発言。フォローのためすぐ後ろを松本が歩いていたので、そのまま二人で下山。登山口を出て「こもれび山荘」に帰っていくのを見届けてから栗沢山へのルートに戻った。その後松本は、2,650m の岩稜帯あたり、稜線手前まで進んだが、稜線はかなりの強風だったこともあり、安全な岩陰で風を避けて待機することにした。やがて 10 分もしないうちに下山してきたメンバーの声が聞こえ、合流。そこからは来た道をピストン。雨で濡れている木の根などもあったが、生徒は全員しっかり歩き、11:16 には登山口、11:30 には北沢峠に戻ることができた。そこから 13:10 のバスに乗るまで、小屋の方に、予定になかったランチメニューを用意していただいたり、バス会社の方に待合所を開けていただいたり。様々なご厚意により、荷物の片付けなどを落ち着いて行うことができ、幸いであった。

その後は、予定通り温泉で疲れを癒し、無事帰阪。2 日間とも、展望には恵まれなかったが、普段あまり経験することのない厳しい風雨を皆と一緒に体験できたことは、今後に必ず活かすことができるし、自信にもつながる。明るく励まし合うなど、チームの結束も深まり、悪天ではあったが充実した研修登山になった。

自分の反省点をあげると、仙丈ヶ岳山行ではA班とB班が想定より離れすぎていたので、ルートを含め、そうした場合の打ち合わせ方法を事前にスタッフ間で共有しておくべきであった。無線機の不具合も調整しておきたかった。フレキシブルに対応することも大切だが、今後はもう少ししっかりと事前準備をして取り組みたいと思う。（記：松本）